平成３０年９月（第５回）教育委員会　議事録

１　開会及び閉会の日時

平成３０年９月２０日（木）午後２時～午後４時

２　場所

井波庁舎　３０１会議室

３　出席委員

・教　　育　　長　高田　勇　　・同職務代理者　碓井　好彦
・教　育　委　員　江川　由貴子　　・教　育　委　員　林　紀孝
・教　育　委　員　水上　和夫

４　説明出席者

・教育委員会教育部長　酒井　啓行　　・教育部次長教育総務課長　村上　紀道
・教育部参事こども課長　武田　秀隆　　・生涯学習スポーツ課長　桜野　高弘
・スキー国体推進室長　水上　武司　　・中央図書館長　安川　絹枝
・福光福祉会館長　鳥越　知証　　・教育センター所長　松永　和久
・教育総務課副参事　北島　一朗　　・教育総務課主幹　堀　桂子
・教育総務課主事　山﨑　香保里

５　傍聴者

なし

６　会議の要旨

午後２時、教育長が開会を宣し、議事に入る。

１　教育長の報告

・　市内中学校体育大会参観御礼
学校によっては雨天により火曜日まで延期されたが、全中学校で無事に実施することができた。３年生にとっては最後の運動会で、応援合戦や競技、係活動等に精一杯取り組んでいたと学校から報告があった。

・　10/29、30　教育委員会県外視察について
視察を予定している高崎市のくらぶち英語村では、子どもたちが日常会話で英語を話しながら寮生活を送っている。子どもたちの活動の様子が、今後南砺市で検討している利賀地域の長期山村留学や井口地域で開校を目指す義務教育学校の参考になるところがあればと思う。また、義務教育学校も視察をできないか検討している。

２　前回議事録の承認

全員異議なく承認した。

３　協議事項

（１）　平成３０年度教育委員会事務の点検・評価報告書（案）について
教育総務課長から９月１３日に開催された点検・評価委員会の概要を報告し、提出された報告書をもって平成３０年度の点検・評価報告書とすることで全員異議なく承認した。
１０月４日開催の市議会全員協議会に点検評価委員会の要点記録と併せて

提出する。

（２）　南砺市子どもいじめ防止対策基本方針検討委員会設置要綱について
教育総務課長から説明した。

（３）　南砺市民間保育園等育成利子補給金交付要綱について
こども課長から説明した。

４　報告事項

（１）　山村留学定住事業「源流の森と山村の暮らし体験キャンプ」について
教育総務課長から説明した。

（２）　中学生学習支援事業の結果報告について
生涯学習スポーツ課長から説明した。

（３）　南砺市民大学講座（後期）の実施について
生涯学習スポーツ課長から説明した。

（４）　南砺市こども読書活動推進計画（第３次）の進捗状況について
中央図書館長から説明した。

６　その他

（１）　第１回南砺市総合教育会議について
教育総務課長から説明した。

（２）　小椋久美子バドミントン教室の開催について
生涯学習スポーツ課長から説明した。

（３）　スポーツ講演会（瀬古利彦）について
生涯学習スポーツ課長から説明した。

（４）　富山県駅伝競争大会　富山県小学生駅伝競争大会について
生涯学習スポーツ課長から説明した。

（５）　平成３０年度南砺市教育センター主催「夏季研修会」の実施について
教育センター所長から説明した。

（６）　南砺市図書館の９、１０月の事業について
中央図書館長から説明した。

（７）　「松村謙三フォーラム秋季プレ研修会」の開催について
福光福祉会館長から説明した。

７　今後の日程

次回教育委員会開催（予定）

日時　平成３０年１１月５日（月）午前１０時

場所　井波庁舎　３０１会議室

７　議事

協議事項について

協議事項（２）関係

○教　育　委　員　国、県で策定している基本方針が改定されたため、市の「子どもいじめ防止対策基本方針」を改定するのだと思うが、市の基本方針はどのように改定するのか。

○事　務　局　今回の改定で、国、県の基本方針ではいじめへの対処につ

いて明記している。いじめが解消している状態について、「単に謝罪をもって解消とするのではなく、いじめに係る行為が少なくとも９０日以上止んでいること」と「被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないとを被害にあった子どもおよび保護者に面談等で確認すること」の２つの条件を満たすことで解消となるという内容が加えられた。また、いじめ防止のための「発達障害等の障害のある児童生徒への配慮」や「海外から帰国した児童生徒や外国人の児童生徒への配慮」も加わった。改定された国、県の基本方針を市の方針に取り入れながら、いじめの具体的な対応策を記載したい。

○教　育　長　いじめに係る行為が９０日以上止む必要があるため、学校では長い期間子どもを見守る必要があり、市教育委員会でも調査を続けなければならない。

○教育委員　国と県のいじめ対策基本方針はいつ変更されたのか。

○事務局　国は平成２９年３月、県は２９年６月に改定されている。

○教　育　長　国、県の基本方針が改定されたことにより、実際に基本方針の改定に着手している自治体はどれだけあるのか、他市の情報はまだ聞くことができていない。

協議事項（３）関係

○教育委員　福野青葉幼稚園はどのような施設か。

○事務局　私立の認定こども園で、平成２９年２月に福野地域のファブリカトヤマの工場跡地に新しい園舎が建設された。

○教育委員　園舎の建設費用に対する補助金は交付されているのか。

○事務局　補助金以外にも独立行政法人福祉医療機構から融資を受けている。借入金利子に１０分の８を乗じた約４５万円を補給金として市で約１９年間支払っていくこととなる。

報告事項（１）関係

○教　育　長　教育委員の皆さんにも実際の子どもたちの活動の様子を見ていただいた。次回の山村留学定住推進協議会の開催はいつ頃を予定しているのか。

○事務局　第２回の協議会は１０月下旬から１１月上旬、第３回の協議会は２月末頃の開催を予定している。

○教育委員　参加者のアンケート項目で「半年や一年間、親から離れて過ごす山村留学に参加してみたいですか」とあるが、子どもだけでなく、保護者対象のアンケートにも同様の項目を加え、長期山村留学についてどのような考えを持っているか意向を聞いてはどうか。子どもが参加したい気持ちと保護者が送り出したい気持ちの両方があるときに初めて実現すると思う。

○教　育　長　アンケートの内容は育てる会で考えているのか。

○事務局　利賀村の商工会で考えている。

○教　　育　　長　今いただいた意見を次回の協議会で伝えてはどうか。確かに長期山村留学に子どもが参加するかどうかは保護者の意向が大切になる。

○事　　務　　局　このアンケート結果は第２回の協議会でも提示する予定にしており、今いただいた意見も伝えたい。

○教　育　委　員　保護者アンケートの回収率が３６．４％と低いが、もっと回収率を上げる工夫ができないか。アンケートに回答していない保護者がどんなふうに考えているのかと思う。１２人しか回収できなかった原因が何かあるのではないか。
また、保護者のアンケート項目で「今回のキャンプの情報を何で知りましたか」の回答で１０人が「育てる会」と回答し、育てる会の偉大さが感じられる。インターネット等でより多くの人に周知する方法、工夫を何か考える必要がある。

○教　　育　　長　夏のキャンプについて、商工会のホームページで周知しているのか。育てる会で周知しているのか。

○事　　務　　局　育てる会のホームページには全国の多くのキャンプ企画のお知らせがある。その１つに利賀地域でのキャンプを載せており、今回は育てる会のダイレクトメールも活用した。また、商工会の利賀村事務所でもホームページで周知している。

○事　　務　　局　子どもをどこかのキャンプに参加させたい保護者が育てる会のホームページを見ているため、育てる会で利賀地域のキャンプを知る人が多い。新聞や広告等を使って周知するには費用がかかる。

○教　　育　　長　全国の育てる会ファンは、どこでキャンプが企画されているかを確認している。育てる会だけでの周知では参加者が拡大しないため、多くの人に知ってもらうために市教育委員会で何か努力ができないだろうか。

○事　　務　　局　例年、パンフレットを東京井波会等では配布している。

○事　　務　　局　今年度は募集人数の３０名がゴールデンウィーク前に定員に達し、キャンセル待ち状態となった。第１希望のキャンプが定員に達してしまったため、第２希望だった利賀地域の山村留学に参加した子どももいた。育てる会からは、市教育委員会独自の周知方法を工夫するように言われている。

○教　　育　　長　子どもたちの活動の様子は市教育委員会のホームページに掲載しているのか。

○事　　務　　局　育てる会のホームページではキャンプの活動の様子を毎日掲載していた。参加している子どもの保護者は必ず見ている。

○教　育　委　員　長期で山村留学を開始すれば参加した子どもたちは地元の子どもたちと一緒に過ごすことになるが、対象は県外の子どものみか。県内や地元の子どもたちも募集し、地元の子ども

たちの話も実際に聞けたら良いのではないか。

○事　　務　　局　利賀地域のキャンプは県外からでも県内からでも参加することができる。

○教　　育　　長　全国には山村留学で滞在するための建物もあるが、育てる会の考えで地元の子どもたちは自宅から通っている。

○教　育　委　員　育てる会は学校を運営するのではなく、生活面で指導しているのか。

○事　　務　　局　学校は一般的な学校と同じで、育てる会は生活拠点での指導をしている。

○教　　育　　長　長期山村留学で県外から受け入れた場合、どこで宿泊するかという問題が出てくる。毎日農家泊することは現実的ではない。したがって、別の建物を新しく建てるか、現在ある施設を利用してそこから学校へ通うかということになる。

○教　育　委　員　参加した子どもたちと保護者のアンケートの回答を見ると、「オロロとアブについて」以外は良かった感想が書かれている。利賀地域の生活の厳しさも体験してもらうことが大切なため、冬の大雪も体験したらどのような意見が出てくるか知りたい。

○事　　務　　局　夏休みのキャンプでは楽しく過ごしてもらっているが、利賀地域の暮らしの厳しい部分も体験して、初めて１年の長期山村留学に結びつくと思う。冬季の暮らしも体験してもらいたいので、冬季のキャンプも今後考えていきたい。

○教　　育　　長　２９年度の保護者アンケートで「子どもは厳しい体験をしたが、楽しい思い出になった」との回答があった。育てる会でも厳しい体験をして成長させたいと考え、プログラムを作成している。川遊びも非常に危険なため、救命胴衣を着て行っている。危険に対して万全の準備をしているため、楽しい思い出になるのだと思う。

○事　　務　　局　育てる会は規律を重んじて指導しているため、楽しい中にも決められたルールがある。

○教　　育　　長　子どもたちは携帯電話やスマートフォンは持ち込まずに生活をしている。現代の子どもたちにとっては現実離れしていると思う。

○教　育　委　員　保護者へのアンケートはどのような方法で実施したのか。

○事　　務　　局　キャンプから子どもたちが帰った後、郵送で行った。

○教　育　委　員　郵送より簡単にアンケートをとる方法があると思う。「はい」あるいは「いいえ」を回答する簡単なアンケートであればインターネットでも可能だと思う。色々な方法を活用すればもう少し回収率が上がると思う。

報告事項（２）関係

○教　　育　　長　来年度の中学生学習支援事業を実施する会場の候補地として、城端地域、福野地域を検討しているとあったが、各地域で類似した事業をしていないか。

○事　　務　　局　城端地域は青少年育成事業の一貫で夏休みに学習支援を実施している。

○教　　育　　長　市の学習支援事業で城端中学校の生徒の参加が少ないのは地域の事業に参加しているからかもしれない。

○事　　務　　局　城端中学校は部活等の理由で参加対象者が少ないと聞いている。

○事　　務　　局　福野地域では地域主体の学習支援事業を実施しているか。

○教　育　委　員　福野地域でも同様の学習支援事業を実施している。

○教　　育　　長　類似した事業をしている地域を会場地にする必要は無いのではないか。

○事　　務　　局　市の学習支援事業は午前の部と午後の部があり、どちらに出ても良い。

○教　　育　　長　２９年度も３０年度も井波中学校の生徒が最も多い。２９年度は福野中学校の生徒は何人参加していたか。

○事　　務　　局　２９年度は福野中学校から５人の参加があった。

○教　　育　　長　学校行事や地域で実施している事業を確認して会場地を決めた方が良いと思う。井波地域ではある程度の参加人数が見込めるのは納得できる。課内で協議してほしい。

○教　育　委　員　中学生学習支援事業は対象を中学３年生のみとしているが、翌年には３年生は卒業するため、参加して良かったという感想が１、２年生に伝わりにくいように思われる。

○事　　務　　局　対象を全学年とすることも検討したが、１、２年生は部活動もあり、３年生が部活動を引退して受験に向けての大切な時期に参加できるようにした。

○教　　育　　長　当初は中学３年生の受験に向けた中学生学習支援事業を開始したが、今後も３年生のみが対象で良いのか。大学生は指導する学年を問わないと思うので、各地域で実施している事業も３年生のみが対象なのか等、来年度に向けて調査して検討してほしい。

報告事項（４）関係

○教　育　委　員　「児童・生徒一人当たりの月平均学校図書館貸出冊数」が年々減少している。目標値を達成するのは非常に難しいように思われる。各学校での指導、努力が必要になるが、何か対策を考えているのか。

○事　　務　　局　毎年目標値には大きく及ばない実績値を報告している。市では学校図書館の環境を充実させるため、学校図書館司書助手の研修を実施している。また、小中学校の図書購入費とし

て毎年度９００万円の予算を措置して教員と学校図書館司書助手とが相談しながら少しでも子どもたちに興味を持ってもらえるような本を購入しているが、なかなか数値が伸びない。

○教　育　委　員　全国的に小中学校で本離れが進んでいる。学校図書館司書助手に努力してもらうことも大切だが、貸出冊数が増えた事例を研修で提示して、勤務校で取り入れてもらう必要があるのではないか。

○事　　務　　局　今年、富山県で開催された全国図書館研究大会に市内小中学校の学校図書館司書助手４名が参加した。自分が興味のある分科会に参加していただいているので、学んだことを各学校で生かしてほしい。

○教　育　委　員　各学校から見ると、この現状はかなり辛いだろう。特に小学校においては、目標値の８．０冊に対して平成２９年度の実績値が５．０冊で、学校図書館司書の努力だけでは達成が難しいと思われる。担任の先生が図書室へ連れていって本を借りる時間を作ることや、あるいは面白い本を子どもたちに紹介しなければ貸出冊数は増えない。また、小学校は時間が無く、長休みには運動等をすることが決められているため、昼休みしか学校図書館に行く時間を作ることができない。１週間に１回の学級活動で学校図書館へ行く時間を作ることができるかもしれないが、年間計画も組まれているため、毎週学校図書館に行くことはできない。したがって、国語の時間に物語を読む楽しさを教える必要がある。また、中学校においては、もっと時間が無いと思う。

○教　　育　　長　小学校の目標値８．０冊、中学校の目標値２．０冊が学校の現状とかけ離れているため、現状に合わせた目標値を設定する必要がある。昔は学校図書館で読書する時間が１週間に１回あったが、学校図書館で本を読む時間を作れない中でどのように対策を講じていくか、大きな課題である。貸出冊数を増やすためには学校図書館司書助手の力では限界があり、我々が積極的に関わっていく必要があると思う。３２年度以降の目標は現場の声を踏まえた目標値にする必要があると思う。

「学校図書館図書標準の達成状況」を達成している小学校が２９年度にマイナス１校となっているのは、何故か。

○教　育　委　員　２９年度に「学校図書館図書標準の達成状況」が５０～７５％に減少した学校は古い図書を廃棄したと思われる。ほとんどの学校が学校図書館図書標準を達成していても安心してはいけないと思う。古い資料が蔵書数として含まれている場合はこの数字は意味のない数字となるため、中身をもう１度

見るべきだと思う。２９年度に学校図書館図書標準が５０～７５％に減少した学校は悪く見るべきではなく、良く見るべきだと思う。

○事　　務　　局　おそらく大規模改修等で蔵書整理をしたのだと思う。

○教　　育　　長　学校の本を廃棄する作業は教職員の協力だけでは難しい。教職員の多忙化が問題になっている中で、蔵書整理の時間を作ることは非常に難しい。教員は夏休みでも研修があり、時間が確保できない。大規模改修に合わせてＰＴＡ、市教育委員会も協力して行っていく必要がある。

○教　育　委　員　市では読書活動を推進しているが、読書離れ、本離れが現実となっている。今の子どもたちは本で調べるのではなく、スマホで検索をして調べる。私たちも同様の傾向になっている。読書する習慣を作らなければ、子どもの力が伸びないように思われるので、学校で読書をする計画を立てて、子どもたちの読書活動を充実させてほしい。

午後４時、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。

平成３０年　　月　　日

南砺市教育委員会

教育長